



宮協会長就任のご挨拶



会長 宮脇 雅俊
2014年12月4日就任

昨年12月4日の臨時理事会におきまして会長に選任されました宮脇でございます。当協会は1970年設立、本年で45周年を迎える長い歴史を有する協会であります。会長の拜命を受けまして、光栄に思うと同時に責任の重さを強く感じております。初代清島省三会長、2代目野崎元治会長、3代目鈴木一郎会長、4代目上田良樹会長に続き5代目の会長となりますが、これまで45年もの長きにわたり、長崎における日米間の友好信頼関係の樹立と維持にご尽力されました歴代会長と役員、会員の皆様方に心から敬意を表したいと存じます。

さて、長崎と米国との交流の歴史を振り返ってみますと、鎖国時代の長崎では米国との直接の交易、交流は認められず主に東インド会社を通しての交易、交流でした。民間における最初の交流は、1848年（喜永元年）に日本で最初の英語教師と言われた米国人ラナルド・マクドナルドが北海道に密入国し、その後長崎へ送還された際、長崎のオランダ通詞森山栄之助へ英語の指導を行ったことにより始まったと良いでしょう。その時、マクドナルドと栄之助の間には英語指導の師弟関係を越えた友情が芽生え、やがて帰米したマクドナルドは1853年（喜永6年）のペリー来航に大きな影響を与えたと言われています。栄之助は日本開国の際、英語通詞のみならず外交官として重要な役割を果たします。やがて1854年に（喜永7年）日米和親条約が締結され、1859年（安政5年）に長崎に米国領事館が設置されます。維新後1879年（明治12年）には南北戦争の英雄で第18代合衆国大統領ユリシーズ・S・グラント将軍が世界周遊旅行の途中、長崎に立ち寄り市民の大歓迎を受けるなど長崎と米国の民間交流は170年近くも前から始まっています。米国は今年で建国239年を迎えます、長崎との関わりが両国にとって如何に貴重で長いものであるかがお分かりいただけると思います。

しかしながら、1941年（昭和16年）から1945年（昭和20年）の間、両国にとって不幸な時代が続きました。長崎も大きな被害を被りました。終戦を迎え、日米両国は過去の歴史を踏まえた上での柔軟な未来志向の考えの下、街の復興と友好親善の復活に懸命に努めてまいりました。そして1955年（昭和30年）米国セントポール市と長崎市との間で、日本で初めての姉妹都市締結が調印されます。そのことは日米親善交流の大きな象徴であり、今日においても長崎での日米親善交流の活動はそれなりの重みと意義を持った活動と認識いたしております。

本年、セントポール市との姉妹都市締結は60周年の記念の年を迎えます。マクドナルドが長崎へ送還され日米間の民間交流が始まり167年、交流の形は変わっても日米両国は互いに良きパートナーとして今後とも歩み続けなければならない存在と思っております。

今後とも役員、会員の皆様方とともに民間外交の立場で日米親善に貢献していきたいと思っております。引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

イベントレポート

平成26年度理事会・通常総会開催

平成26年7月25日（金）ANAクラウンプラザホテル長崎グラーバーヒルに於いて長崎日米協会の理事会、通常総会を開催いたしました。総会には約40名の会員の方々が出席され、総会の冒頭で上田良樹会長は「平成25年度の事業の中で日米学生会議の開催とケネディ大使の長崎訪問の二つの事業についてはたいへん意義のある事業であった。」と報告されました。総会では、平成25年度の事業報告、決算及び平成26年度の事業計画、予算等が審議承認されました。総会後の講演会では在福岡米国領事館のユーリ・フェッジキフ首席領事に「米国から見たアジアのゲートウェイとしての九州の役割」という演題でご講演をいただきました。



理事会の様子



総会で挨拶をされる上田会長



ご講演をされるフェッジキフ首席領事

英語スピーチコンテストに後援



優勝した 高 銀彬さん
(聖和学院2年)

平成26年10月11日（土）長崎県立長崎西高校に於いて、第23回長崎県高等学校英語スピーチコンテストが開催されました。大会には県内14校から23名が参加して、日頃の英語力を競い合いました。

優勝者は「Deciding My Future Course（夢を追いかけて）」と題してスピーチされた聖和女子学院2年の高 銀彬（こう うんびん）さんでした。第2位には活水高校2年 小柳 雅樹さん 題名「From Japan to the Word」、第3位には佐世保北高校2年 塚本 千里さん 題名「Life the beginning of love」がそれぞれ入賞されました。

高さんは6歳頃から始めたピアノと将来の夢について「一昨年米国のユタ大学での8週間のピアノレッスンの後、コンサートホールで行われた最後の演奏会で受けた観客からの熱烈な拍手喝采を浴びたことが自分の将来の夢、プロのピアニストになることを強く決意させた。」と強く語りかけ見事栄冠を勝ち取りました。高さんは平成25年度に続く（平成25年度は2位）入賞でした。入賞者はいずれも身振り手振りを交えて表情豊かに自分の意見を英語で主張されていました。長崎日米協会から優勝者に副賞を贈呈いたしました。

独立記念式典に参加

平成26年7月1日（火）グランドハイアット福岡に於いて、アメリカ合衆国独立238年記念レセプションが開催されました。オープニングで米海軍佐世保基地のカラーガード隊が入場、米国国歌斉唱の後、主催者を代表して在福岡米国領事館のユーリ・フェッジキフ首席領事がご挨拶されました。フェッジキフ首席領事は挨拶の中で、当日発表された日本政府の「集団的自衛権の行使容認の閣議決定」について触れられたのが印象的でした。レセプションには九州内外からアメリカ関係者が多数出席され、238回目の独立記念日を祝いました。長崎日米協会からは安田事務局長が出席しました。



カラーガード隊



挨拶をされるフェッジキフ首席領事

長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマスパーティ開催

平成26年12月4日（木）、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて恒例の「クリスマス夜会2014」を長崎日英協会と合同で開催いたしました。当日は長崎日米、日英両会員約70名、長崎在住の米英人約70名の計140余名が参加、ご来賓として長崎市の田上富久市長、長崎日米協会側から在福岡米国領事館のユーリ・フェッジキフ首席領事が、長崎日英協会側から在北九州英国名誉領事館のローレンス・チーヴァス名誉領事が参加され、たいへん華やかなパーティとなりました。NBC長崎放送の塚田恵子アナウンサーとロンドン出身の長崎市国際交流員セーラ・スクラーさんとの息のあった司会進行の下、ディキシージャズバンド「長崎ホットショット」の軽やかなジャズ演奏が始まり、プレゼント抽選会の時間になると会場の雰囲気は最高潮に達し、抽選番号が発表されるたびに会場からは歓声が上がり、大いに盛り上がりました。今回も、日英、日米の垣根を越えて楽しい時間を共有することができました。



パーティの様子



プレゼント抽選会の様子

森山栄之助顕彰碑建立～長崎南ロータリークラブ創立50周年記念事業



マクドナルド(向かって左)と栄之助(右)の顕彰碑

平成26年9月13日(土)長崎市西山松の森通りに於いて「森山栄之助顕彰碑」の除幕式が執り行われました。森山栄之助は長崎出身のオランダ通詞で、幕末のペリー来航時に通訳兼外交官として日本開国に貢献した人物です。栄之助は元々オランダ通詞でしたが、北海道で密航者として捕えられた米国人ラナルド・マクドナルドが長崎に送還されてきた際、マクドナルドから英語を学びます。

英語の修得を通し、いつしか二人の間には友情が芽生え、囚われの身のマクドナルドにとって森山栄之助は良き相談相手となります。そしてペリー来航を迎え、栄之助は英語通詞として江戸に招聘されます。その後栄之助はヨーロッパにも出向き英語力を駆使して外交官としても活躍しました。

しかしながら、マクドナルドと栄之助の関係やその功績を地元長崎でも知る人は少なく、静かに歴史の中に埋もれたままとなっていました。1988年(昭和63年)にマクドナルドの日米友好に関わる功績を後世に伝える為に米国オレゴン州ポートランド市に「米国マクドナルド友の会」が結成され、長崎では1998年(平成10年)に「マクドナルド友の會長崎」が結成されました。両会は国際交流も兼ねて二人の功績を顕彰し後世に伝える活動を行っています。同じく長崎南ロータリークラブでも日米友好の礎を築いたマクドナルドと栄之助の功績を顕彰する活動を続けており、1994年(平成6年)にクラブ創立30周年記念行事として長崎市西山松の森通りにマクドナルドの顕彰碑を建立、このたび(2014年に)同クラブ創立50周年を記念して森山栄之助の顕彰碑を建立されました。除幕式には在福岡米国領事館からユーリ・フェッジキフ首席領事、長崎市の田上富久市長の他、米国マクドナルド友の会会員、栄之助のご子孫など約30名の方々が出席されました。



来賓挨拶 ユーリ・フェッジキフ首席領事

デルノア通り開設式



田上市長とパトリアさん

平成26年8月8日(金)長崎市愛宕町老人保健施設サンブライト愛宕前にて「デルノア通り」の看板除幕式が執り行われました。デルノア(Victor E. Delnore)氏は終戦後の1946年(昭和21年)の9月に長崎進駐軍本部司令官として長崎に着任した米国人です。デルノア氏は原爆投下直後の混乱する長崎に於いて、治安の維持に努める一方、長崎の復興に尽力された人物です。特筆すべきことは1948年、長崎市に対して第1回目の平和祈念式典に当たる「文化祭」について、米国軍人でありながら長崎市民と一体となって開催の実現に努力されました。また「人類を破滅に導く原爆は二度と使ってはならない」という趣旨の強いメッセージも寄せられました。在任中は多くの市民から慕われ、いつしかデルノア氏が通われる通りは「デルノア通り」と呼ばれるようになりました。

このたび、デルノア氏の長崎復興への尽力と反核への強い想いを後世に伝えるために長崎市により「デルノア通り」の看板が設置されたものです。式典には在福岡米国領事館からユーリ・フェッジキフ首席領事、田上富久長崎市長の他に米国からは長崎在任中に生まれたデルノア氏の長女パトリア・マギーさん(66才)も出席されました。当時新聞記者としてデルノア氏と取材を通して懇意にされていた高原至氏も式典に参加され、デルノア氏の温かい人柄や米軍人としての勇気ある行動を思い起こしながら、当時まだ1才だったパトリアさんとの65年ぶりの再会に感無量の心境と語られました。



高原至氏と65年振りの再会



長崎市愛宕町4丁目～1丁目～正覚寺の通り

LA Nagasaki-kai(南加長崎県人会)より

ロサンゼルスに中村知事ご一行をお迎えして県人会25周年記念式典開催

米国カリフォルニア州は加州と呼ばれることから、当地ロサンゼルス地域は南加、羅府とも呼ばれています。南加長崎県人会創立25周年を祝して、中村法道長崎県知事ご一行70余名を長崎からお迎えし、2014年8月30日に記念式典を盛大に開催することが出来ました。

在ロサンゼルス日本国総領事堀之内ご夫妻様はじめ当地名士含め170余名のご参加により長崎県と当会をアピールすることができ、長崎から遠路お越し頂きました皆様と関係者に、心より感謝申し上げる次第です。



また、西古川町文銭会ご一行には長崎くんちの出し物を携えてご来羅頂きました。出し物は伝統ある櫓太鼓、甚句、弓取り、日系敬老ホーム慰問公演での大喝采に始まり、当会式典でも披露され、ロサンゼルス日本国総領事公邸にて堀之内総領事と中村知事による内外の賓客とマスコミを招いての200名近い参加の長崎県PRパーティーでは、多様な人種の方々にも長崎くんちの演技は日本の伝統文化として大きな感動を与えました。この特別企画は長崎県・市、そして県内団体等からの有り難いご支援、西古川町文銭会の心意気とご好意により実現することが出来たものです。



紐育（ニューヨーク）と並ぶ全米2大都市の羅府、明治初年以来日系移民の歴史を刻み、世界最大数十万人規模の日系社会を有する南加、人種のるつぼの中で日本文化は年月を経て、深く多様に溶け込んでいます。各県人会行事においても、青森のねぶた、仙台の七夕なども紹介され、多彩かつ華やかです。そこで当会も長崎色を出すため、新鮮な長崎

の農水産物を紹介し、くんち出し物を披露、さらに平和発信パネル展「長崎へようこそ～世界に誇る遺産、平和・国際都市～」を昨年4月、記念行事オープニングとして画期的な企画を実施しました。UCI大学キャンパスにおいて学生や地域の皆さんも参加し、田上長崎市長によるセミナー、総領事へも含めた質疑応答など、活発かつ有意義な平和イベントが実現できました。

25周年の節目に当会は”LA Nagasaki-kai”に改名し、さらに日米親睦交流の輪と母県長崎発展のため、21世紀型県人会として活動の枠を広げることを表明しました。1989年の当会発足時は事務局として、そして現在は会長として米国生活31年になりますが、故郷長崎への引力は年毎に強まり、長崎の魅力アメリカへ、さらに世界へと伝え、高めることに微力ながら努めていきたいと思っています。

長崎よかここバンザイ！



LA Nagasaki-kai 会長 前田拓

米海軍佐世保基地司令官紹介



マシュー・D・オヴィオス 米海軍大佐

Captain Matthew D. Ovios

出身地：マサチューセッツ州マーサズビンヤード

直近勤務：洋上士官養成校艦隊訓練部長

(ロードアイランド州ニューポート)

教育：コルビー大学文学士号取得(1990年卒業)

海軍軍事大学修士号取得(2003年卒業)

職務経歴：

(洋上勤務)

USS トーマスS ゲーツ (CG51) 航海士、甲板士官、武器士官補佐

USS カウフマン (FFG59) 作戦部長

第28駆逐艦戦隊参謀部 戦闘システム士官、訓練即応士官、防護士官

USS デカター (DDG73) 副長

USS イングラム (FFG61) 艦長

第3空母打撃軍参謀部 洋上作戦部長

(陸上勤務)

海軍兵学校 船舶操縦術・航海法教官

海軍作戦本部幕僚

洋上士官本部 (OPNAV N86) 洋上攻撃トマホーク部部長

勲章ならびに特筆すべき業績：

勲功章 (4回)

海軍功労章 (5回)

その他、様々な個人表彰、航空章

☆佐世保基地に赴任が決まった時、多くのアメリカ人が日本がどんなに楽しかったかを語り私も必ず日本が好きになるだろうと断言しました。

☆彼らは本当に正しかった！1年前佐世保に着任して以来、妻と私は九州の自然の美しさと暖かい歓迎に圧倒されています。

☆私の司令官としての最重要任務は地元の方達と良い関係を維持していくことです。長崎県民の皆様がこの任務をとっても簡単にしてくれています。今後もこの強い絆を繁榮させ続けたいと思います。

事務局より

新規会員募集中！

長崎日米協会では新規入会の会員を募集中です。会員の皆さま方の中でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら是非ともご加入をお奨めいただきますようよろしくお願いいたします。

会費

個人会員	年会費	2,000円
法人会員	年会費	10,000円(1口3名まで)

編集後記

1977年(昭和52年)十八銀行は創立百周年を迎えました。その際にミネソタ州セントポール市より昭和52年9月21日をセントポール市の十八銀行デーと制定するとの宣言書が授与されました。当時の長崎日米協会の会長は故清島省三頭取でありました。宣言書は長崎市とセントポール市との友好親善の早期樹立に対して長崎日米協会が果たした貢献に贈られたものです。長崎市とセントポール市は1955年(昭和30年)に姉妹都市の提携をいたしました。日本で最初の姉妹都市提携でした。大戦後、日米互いの未来のための友好復活の声は、長崎市とセントポール市から上がったのです。今年は姉妹都市提携60周年、長崎市とセントポール市でいろいろな親善セレモニーが開催される予定です。70周年、80周年に向けて長崎日米協会も微力ながら協力していきたいと思っております。



セントポール市から贈られた宣言書の前で米セントポール姉妹都市委員会の方々と

長崎日米協会事務局 〈担当者：安田・末吉〉

〒850-8618 長崎市銅座町1-11 十八銀行本館7階 長崎経済研究所内
TEL:095-828-8859 FAX:095-821-0214 E-mail:nir@nagasaki-keizai.co.jp